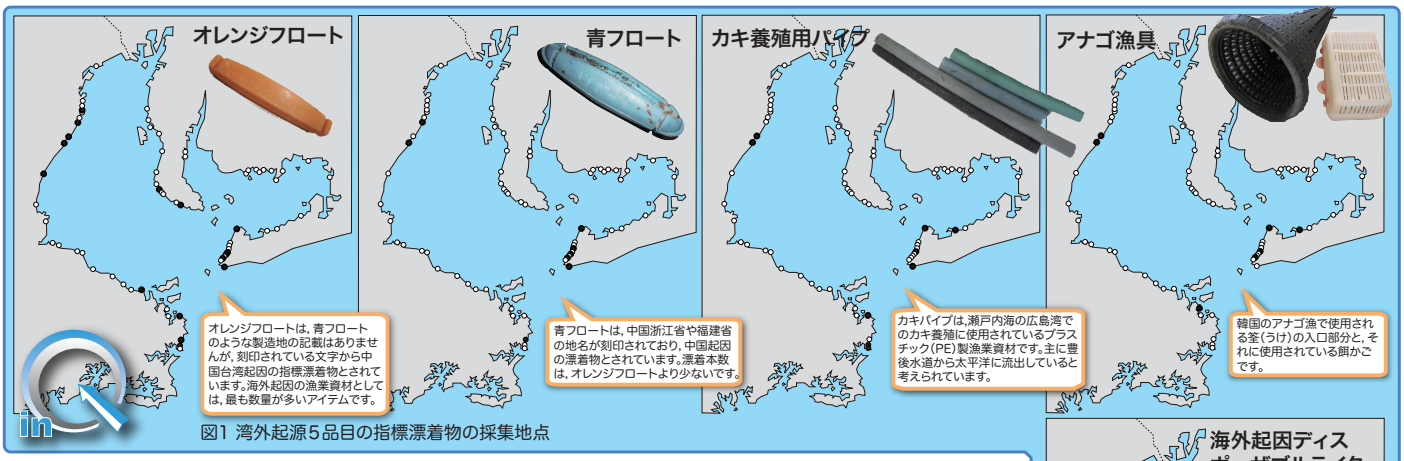

図1 湾外起源5品目の指標漂着物の採集地点

外洋から流入について5指標漂着物の分布から共通して言えることは，外洋漂流物は，湾口部の鳥羽市海岸および渥美半島先端に漂着するだけでなく，一部は湾内にも流入し，鈴鹿市海岸にも到達していました。

「外洋からの流入」

指標漂着物と指標評価手法を用いた

伊勢湾海岸漂着ごみ研究

鹿児島大学水産学部 海ごみ研究室
クリーンアップかごしま事務局　藤枝　繁

調査日時：2008.5.14 -17
調査方法：指標漂着物法，海辺の指標評価手法

研究目的

伊勢湾における海洋ごみの漂着状況から，以下の3つの知見を得る。

- in：外洋からの流入
- inside：湾内での移動
- out：外洋への流出

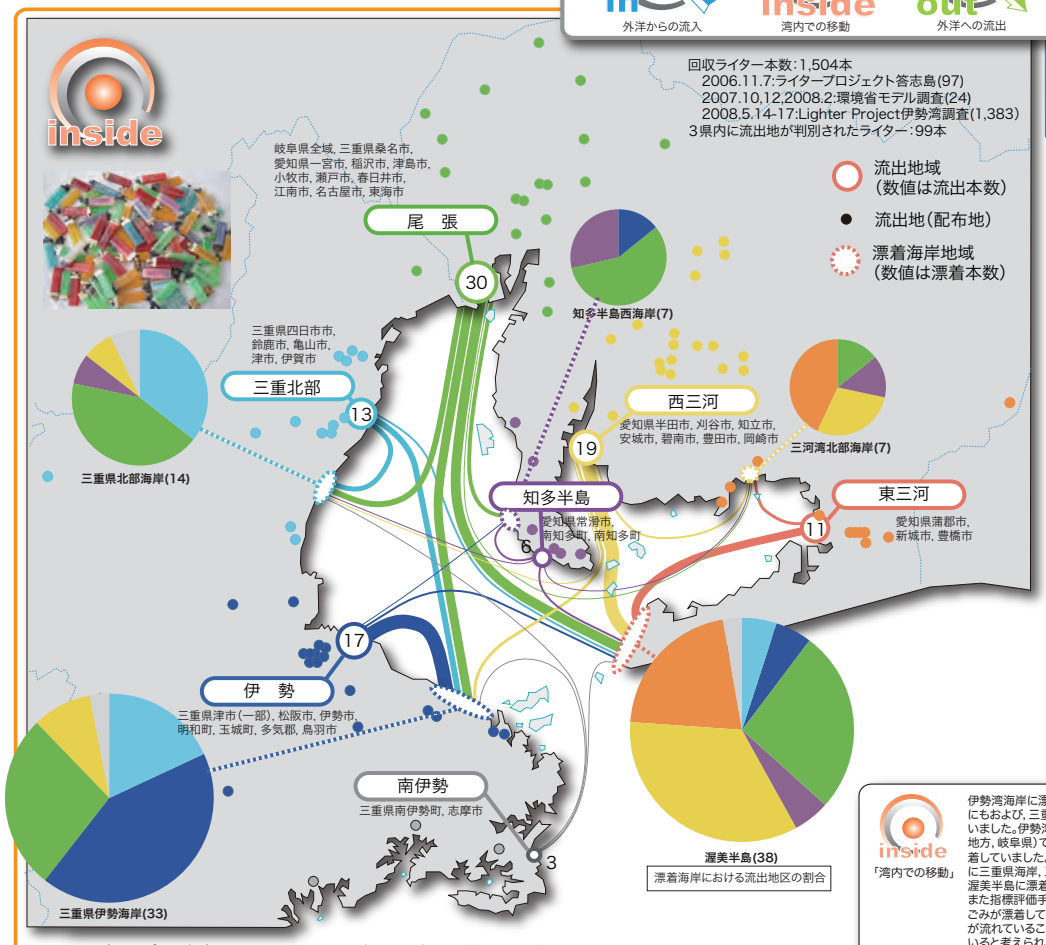

図2 ディスポーザブルライターの流出地（配布地）と漂着地の関係

図5　伊勢湾を流出地とする指標漂着物（ライター）の漂着地（ライタープロジェクトより）

愛知県，岐阜県，三重県を起因地とするライターは，伊勢湾から東の遠州灘海岸，三浦半島，福島県海岸に漂着しているだけでなく，瀬戸内海東部や東シナ海の沖縄県与那国島，鹿児島県吹上浜，日本海の山形県飛島にも漂着していました。

「湾外への流出」

伊勢湾海岸に漂着散乱するライターの起因地は，沿岸部だけでなく，内陸部の都市にもおよび，三重県，愛知県から流出したものは，それぞれ対岸の他県にも漂着していました。伊勢湾内で最も流出量が多いのは尾張地区（三重県桑名市，愛知県尾張地方，岐阜県）で，ここから流出したものは伊勢湾南部の渥美半島や伊勢海岸に漂着していました。一方，三重県（北部地区，伊勢地区）を起因地とするライターは，主に三重県海岸，三河湾（西三河地区，東三河地区）を起因地とするライターは，主に渥美半島に漂着していました。
また指標評価手法によって伊勢湾では鳥羽市海岸や渥美半島先端部に高密度にごみが漂着していることがわかりました。これは伊勢湾では湾口部に向かってごみが流れていることを示し，漂着しないごみは，伊良湖水道を通って湾外に流出していると考えられます。
よって，伊勢湾における海洋ごみ問題は，湾内3県だけの問題ではないと言えます。

「湾内での移動」

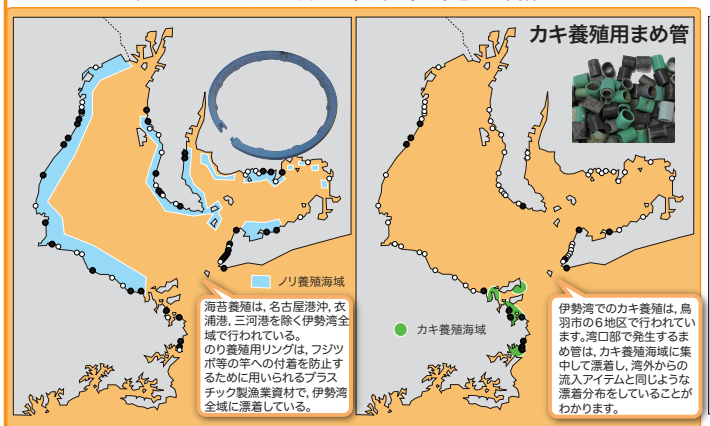

図3 湾内起源2品目の指標漂着物の採集地点

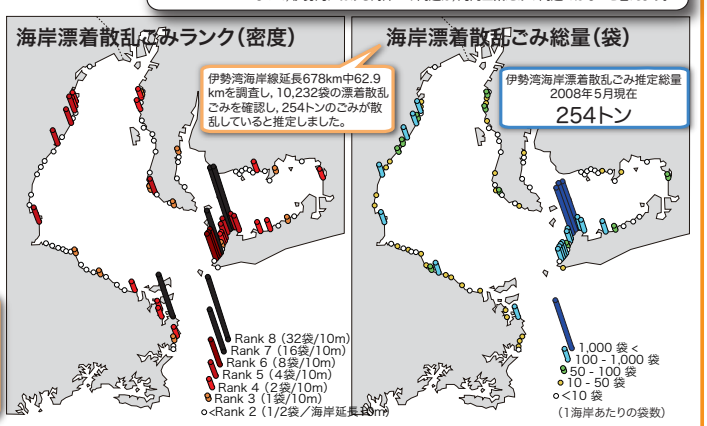

図4 海辺の指標評価手法による漂着散乱ごみの海岸ランクと海岸別推定ごみ量

Copyright (C) 2008 Seafrogs+海ごみ研究室　2008.9.8　Shigeu FUJIEDA　URL<http://seafrogs.info/>